

歴代会長からのメッセージ

回想 ～創立30周年に寄せて～

日本電気硝子(株) 顧問

森 哲次

(2008年6月～2010年6月 会長)

ニューガラスフォーラムの創立30周年にあたり、心からお慶び申し上げます。

さて、私が会長を務めていた2年間には、大きな出来事がありました。リーマンショックと民主党による政権交代です。リーマンショックが経済に与えた影響は果てしなく大きく、我々製造業も生産量を大きく縮小し、工場は静寂に満ち、一般の従業員でもその影響の大きさを肌で実感できるものでした。政権交代は画期的でしたが、低迷する経済を背景にして、永田町だけが活気に満ちていて、何か空虚に感じられました。

さて、当フォーラムでも大きな出来事がありました。法人格の変更方針の決定と事務所の移転です。一般社団法人化は、最も大事な会員サービスのための事業活動に制限を受けないことがないよう選択された、と記憶しています。新橋から新大久保への事務所移転は、経費節減もさることながら法改正後の耐震基準を満たすことが目的でした。私自身は会長退任時期でしたが、フォーラム創立25周年の春に、新たな地で新たな法人格でスタートが切れることを喜ばしく感じたものです。

記憶に残るトピックとしては、NEDOの「ガラス革新溶融」がスタート（平成20～24年）したことが挙げられます。先導研究を引き継いで、旭硝子様や東洋ガラス様でテストプラントがスタートし、翌年に麻生総理大臣が視察されたことが印象深いです。省エネルギーへの関心の高さから、その成果は各種学会や講演会で注目を集め、さらに、この研究に必要な技術として生まれたガラス溶融シミュレータは「GICFLOW」として実を結びました。継続中の「三次元光デバイス」も加工性が改良されるなど、確実に成果をあげました。

これ以外にも、セミナーや大学院、構造データを新たに加えたガラスデータベースなど地道な活動も休みなく続けられてきました。先述のような困難な状況下でも、こうした事業が滞りなく進められたのは、事務局をはじめ、実際に運営を担っていただいている先生方や、会員各社からの委員の方々のおかげです。当フォーラムがこれから先、40年、50年と新たな歴史を刻み、引き続き日本のガラス産業の発展に大きく貢献されることを心から期待しています。